

新型コロナウイルス感染症禍での 医療費の動向について

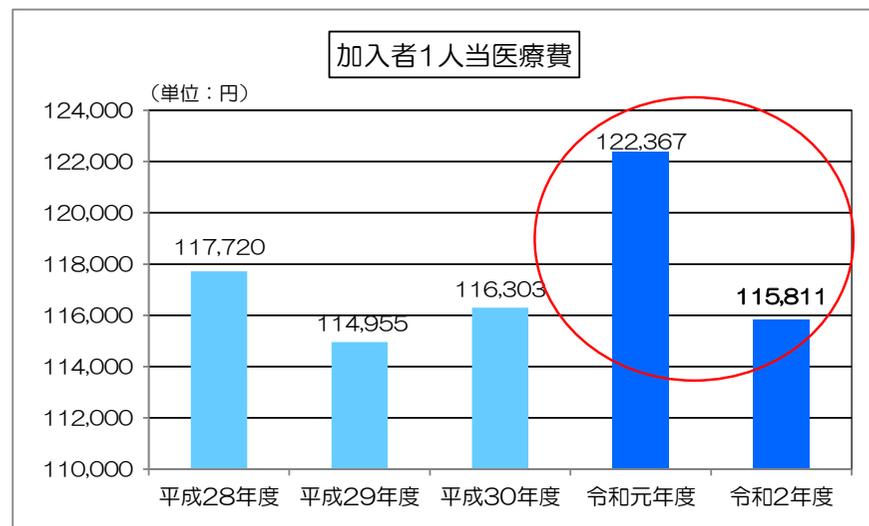
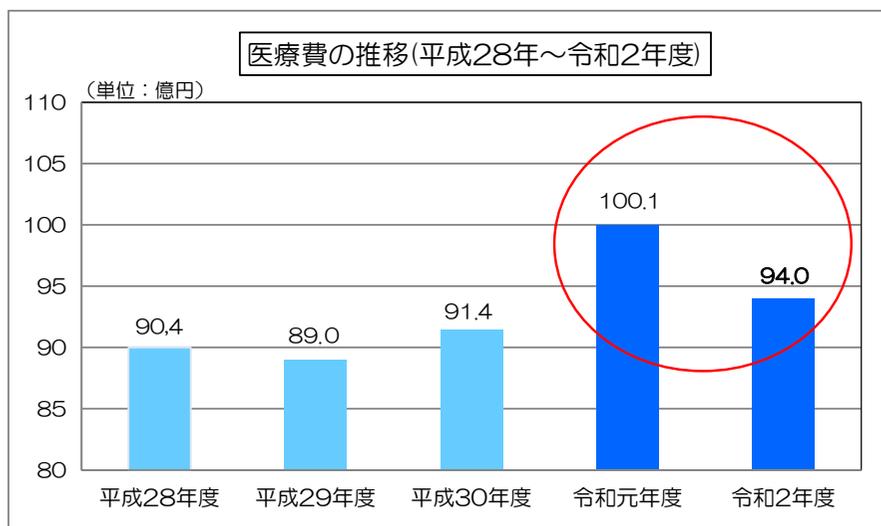
- | | |
|--------------------|--------|
| 1. はじめに（医療費の推移） | ・・・P.1 |
| 2. 大幅に減少した医療費 | |
| 3. コロナ禍での医療費の月別推移 | ・・・P.2 |
| 4. 家族の疾病別医療費の動向 | ・・・P.3 |
| 5. 小人の医療費が大幅に減少 | ・・・P.4 |
| 6. インフルエンザの医療費 | ・・・P.5 |
| 7. 新型コロナウイルス感染症の状況 | ・・・P.6 |
| 8. まとめ | ・・・P.7 |

1. はじめに（医療費の推移）

- 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響を受けて医療費が減少しています。その要因等について、以下のとおり検証を行いました。

2. 大幅に減少した医療費

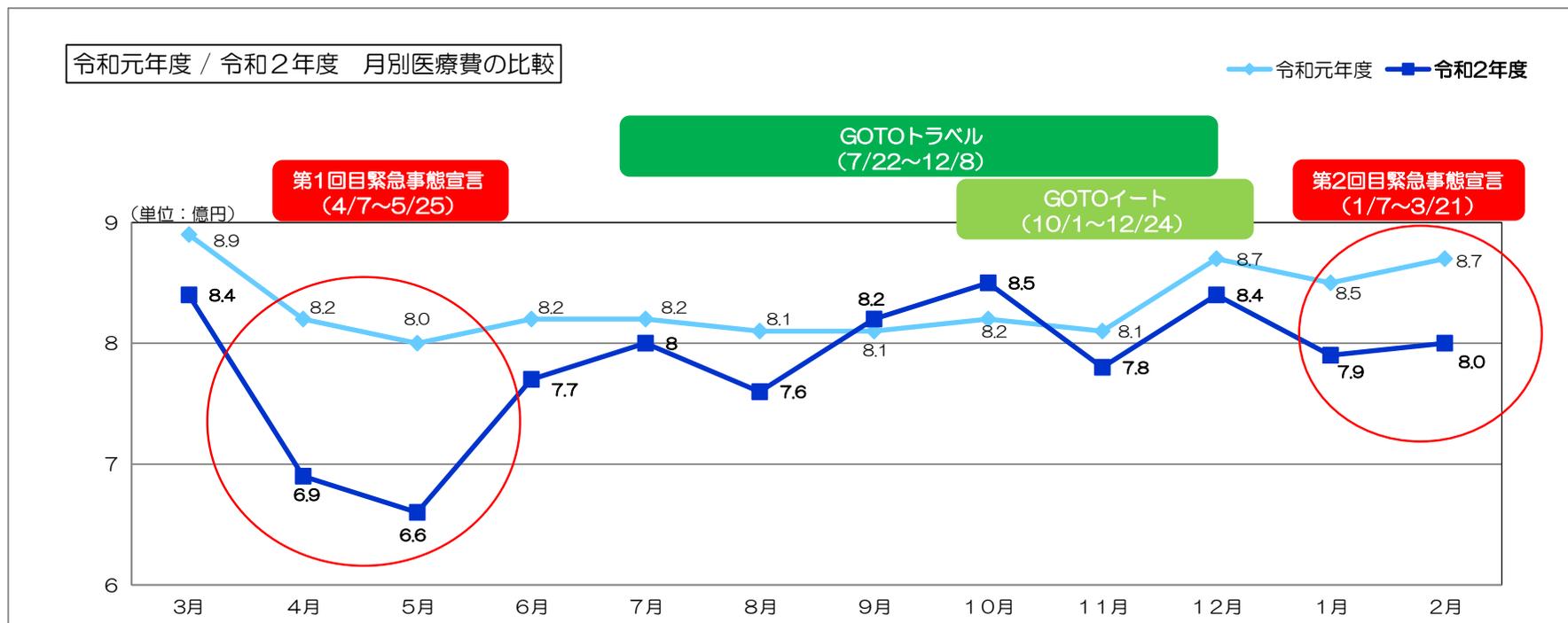
医療費は、「新型コロナウイルス感染症」蔓延の影響による「受診控え」で大きく減少



- 新型コロナウイルス感染症禍にある令和2年度の医療費総額は、受診控えの影響により、前年度と比較して大幅に減少し94億円（前年比▲6.1%）となっています。
- 令和2年度の加入者1人当医療費についても、115,811円（前年比▲5.4%）と減少となりました。

3. コロナ禍での医療費の月別推移

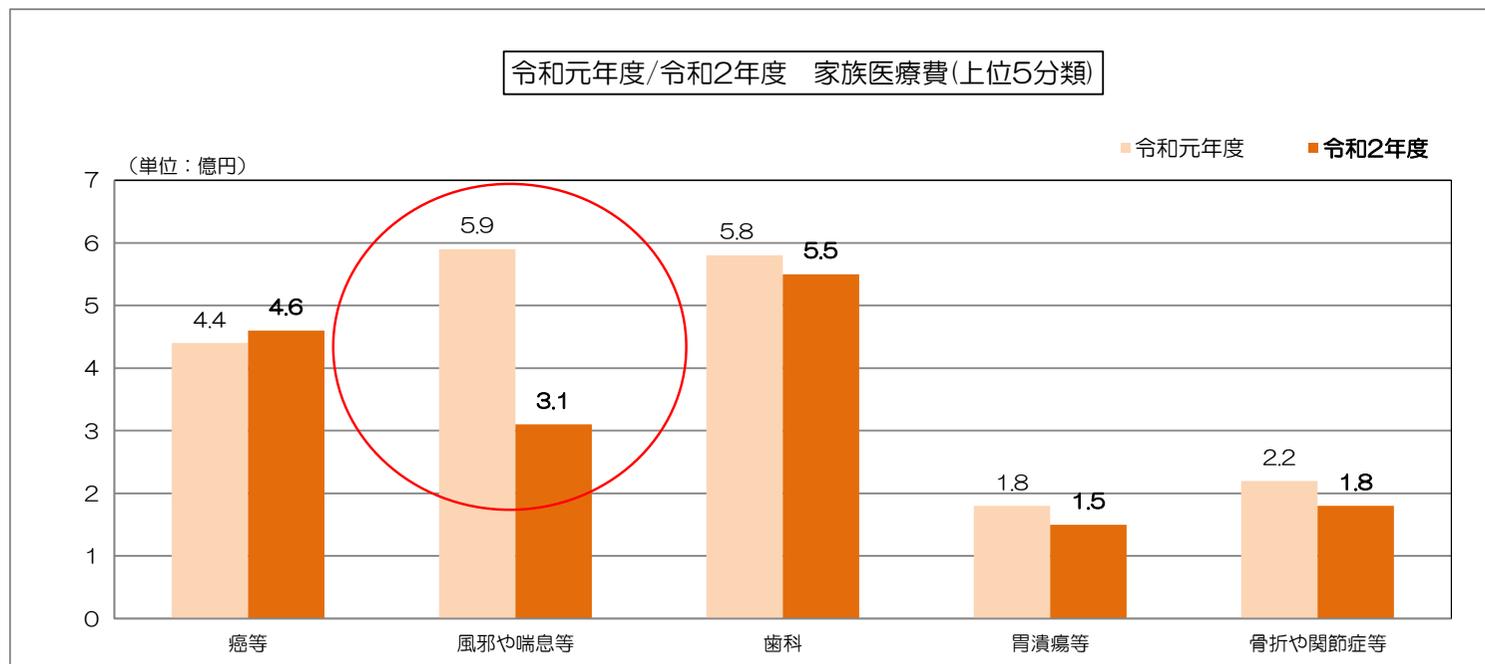
緊急事態宣言期間は受診控えにより減少、宣言解除後のGOTOイート
GOTOトラベル期間は受診者増が顕著となる



- 第1回目の緊急事態宣言期間中の医療費は、「不要不急の外出の自粛」等による受診控えの影響が顕著で、4月▲1.3億円、5月▲1.4億円と大幅に減少しています。
- 第2回目の緊急事態宣言期間中も1月▲0.6億円、2月▲0.7億円減少しました。緊急事態宣言下では医療費が減少する傾向にあります。

4. 家族の疾病別医療費の動向

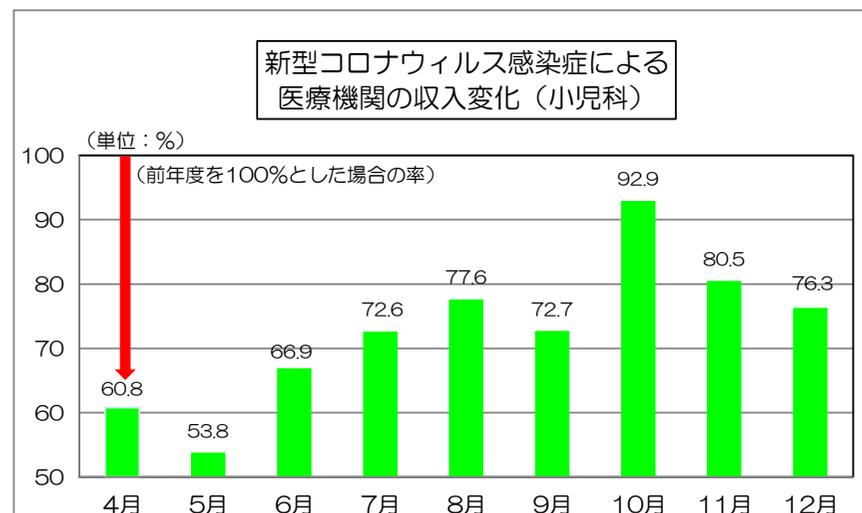
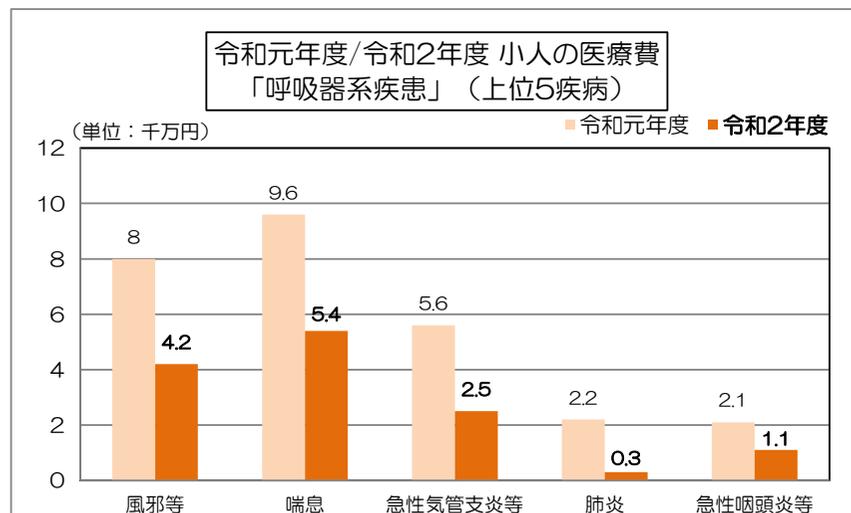
「呼吸器系疾患」(主に風邪や喘息等)が減少、「歯科」は横ばい



□ 家族の全体医療費は、▲5.2億円となり、その中で「呼吸器系疾患」(主に風邪や喘息等)は▲2.8億円と大幅な減少が見られました。

5. 小人の医療費が大幅に減少

受診控えの影響で「呼吸器系疾患」（主に風邪や喘息等）の小人（0歳～12歳）の医療費が減少



出典：厚生労働省「第142回社会保障審議会医療保険部会」
医療保険制度における新型コロナウイルス感染症の影響

- 小人の医療費について
 - 小人の「呼吸器系疾患」における医療費は、▲1.9億円と大幅に減少しました。
- 新型コロナウイルス感染症による医療機関の収入の変化（小児科）について
 - 緊急事態宣言下である4月、5月の減少が顕著となっています。

小児科で患者が減った理由



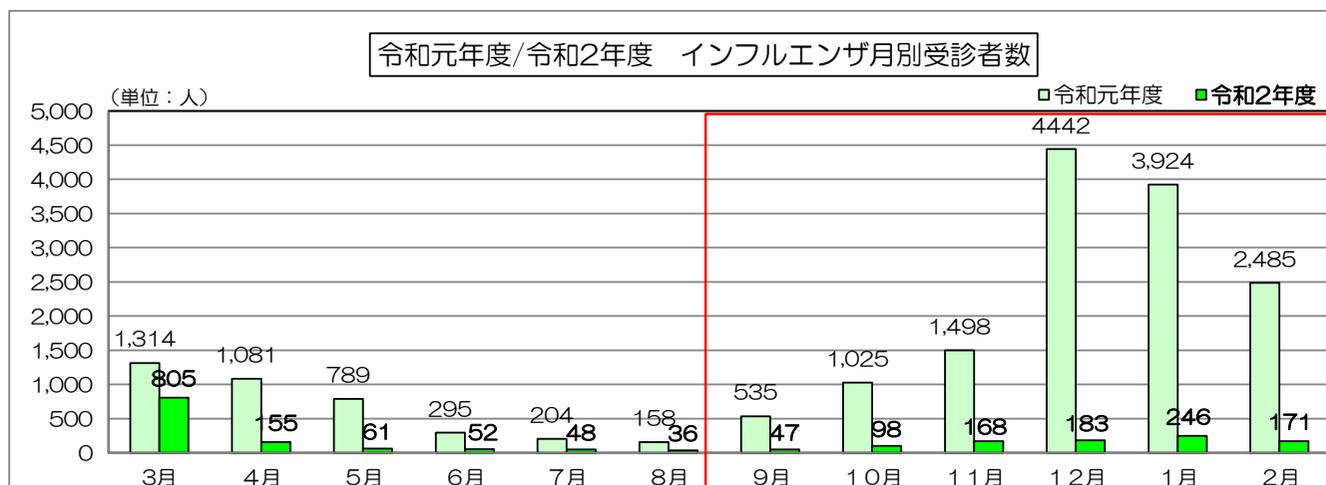
- NHK News「おはよう日本」より
令和2年11月に日本医師会の発表を受け、同月24日にNHK News「おはよう日本」より～受診控えで小児科が危機～が放送されました。

【小児科で患者が減っている要因】

1. 親が子どもへの感染を心配して受診を控えたことなど
2. 休校や外出の自粛、マスク、手洗いなどの感染対策をすることで、感染症になる子供自体が大幅に減ったことなど

6. インフルエンザの医療費

インフルエンザの医療費は▲1.2億円と大幅に減少
「マスク・手洗い・うがい」の新型コロナウイルス感染症対策が効果あり



- インフルエンザによる受診者数は、例年9月頃から増加し始め12月・1月にピークを迎えその後、下降する傾向にあります。
- 令和2年度 of 受診者数は大幅に減少し、2,070人（対前年比▲15,680人▲88%）となり、医療費は▲1.2億円となりました。
- 令和2年度のインフルエンザ罹患状況も、新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受けています。

インフルエンザ患者激減 新型コロナとの同時流行気配なし？「ウイルス干渉」の可能性も



例年ならインフルエンザの流行期に入る時期を迎えたが、今年は厚生労働省への患者報告数が極めて少ない。海外でも似たような状況にある。世界保健機構（WHO）によると、冬を越したオーストラリアや南アフリカなど南半球では今年、インフルエンザがほとんど流行しなかった。

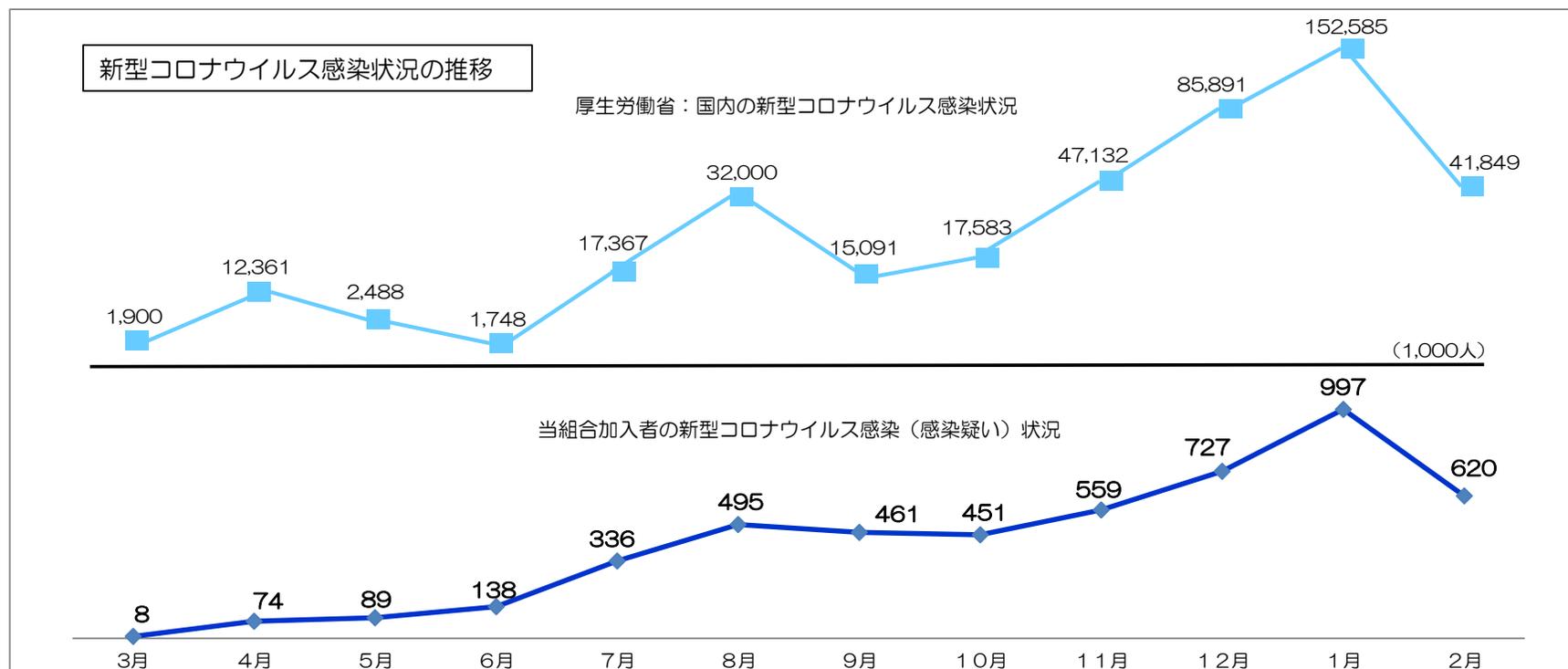
WHOは「手洗いなどの衛生対策や旅行規制などの移動制限により、流行しなかった可能性がある」と理由を分析した。

北里大の中山哲夫特任教授（臨床ウイルス学）は「ウイルス干渉」の可能性を指摘する。あるウイルスが体内の細胞に感染すると、ほかのウイルスに感染しにくくなる状態を指す。【引用：東京新聞（2020年12月4日）より一部抜粋】

「ウイルス干渉」とは、あるウイルスが体内の細胞に感染すると、他のウイルスが感染しにくくなるものです。世界的にウイルス干渉が起きている可能性があると言分析されています。

7. 新型コロナウイルス感染の状況

加入者の感染（感染疑い）状況は、全国の感染者数と同様の傾向



□ 当組合の新型コロナウイルス感染（感染疑い）者の月毎の増減は、厚生労働省が公表した「国内の新型コロナウイルス感染者数」と同様の推移となっています。

8. まとめ

令和2年度の医療費は「新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響」による受診控えによって、大幅に減少しました。

「新型コロナウイルス感染症」は、私たちの生活を大きく変えることとなりましたが、同時に医療についても大きな変化があったことがわかります。

健康保険組合連合会が公表した「新型コロナウイルス感染症拡大期における受診意識調査報告」によると、「持病あり」の者のうち24.7%が通院を抑制（頻度減＋通院取りやめ）し、「新型コロナウイルスの感染が国全体で収束するまでは以前のような頻度では通院したくないと考えている者」が54.3%、「国全体で収束しても、以前のような頻度では通院したくないと考えている者」が23.4%いました。また、通院抑制に伴って生じる体調の変化は、「特に体調が悪くなったとは感じない」が最も多く69.4%、「体調が少し悪くなった」は10.7%にとどまる結果となりました。

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、人々の行動に変化があり、医療機関への通院に対する意識にも大きな変化が見られました。



ご一読いただきありがとうございました。

問合せ先

 東京都報道事業健康保険組合
医療費適正化対策係
電話 03 (6264) 0135